

課・タイトル	L1 あいさつをする
ねらい	初対面の挨拶、近所の人との日常的な挨拶ができること
設定	<p>パート1: 交流会の会場で初対面の人と挨拶をして、名前や国、職業を聞き合います。</p> <p>パート2: 近所の人と会ったとき、挨拶をして天気の話をしします。</p> <p>パート3: 隣に住んでいる人に入居の挨拶をします。どこから来たかという質問に答えて、挨拶の品物を渡します。</p>

パート	L1-1
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて会った人にあいさつをしたり、名前を言ったりすることができる ・初めて会った人に国や仕事を聞いたり、言ったりすることができる
場面設定	交流会の会場です。いろいろな国から日本に来ている人たちが集まっています。日本語学校の人、会社の人があります。互いに、初対面の挨拶をして、名前、国、職業を聞いたり、答えたりします。
場面会話	<p>用意するもの 名札、紙コップ</p> <p>指導のポイント</p> <p>新しいクラスが始まってすぐの場合は、「学習者同士が自己紹介する」という活動を実際に必要なコミュニケーションとして行うことができます。小道具を利用して、実際の交流会の雰囲気をつくり、その中で練習をしてみましょう。</p> <p>まず学習者自身の名前を使って練習をさせます。それができるようになったら、好きな名前や職業を選んで伝え合うゲームをすると、実際の場面での聴き取りの力をつけることもできます。</p> <p>立ち位置、目線、態度、声調など非言語要素にも注意させます。相手との距離が近すぎたり、遠すぎたりしないように気をつけさせましょう。</p> <p>プライベートレッスンの場合は、まず教師と挨拶をして導入し、練習します。そのあとで、何人かの日本人に紹介して、実際に挨拶をしてもらいましょう。</p> <p>すすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)学習者一人ひとりに名札を配り、カタカナや母語の文字などで自分の名前を書かせます。一人ひとり、名前の呼び方を確認します。 2)場面会話のイラストを見せて、交流会の場面であることと、どんな話をするのかを、イラストのその部分を指し示しながら、把握させます。 3)学習者全員に紙コップを持って立たせ、交流会のパーティー会場の雰囲気を作ります。 4)隣の人同士で初対面の挨拶をさせ、名前、国、職業を聞いたり、答えたりさせます。 5)L1-1①の場面会話を練習し、できるようになったら L1-1②の場面会話をします。
練習1	<p>「わたしは 名前です。身分・職業です。」</p> <p>場面会話には「サラです。」「わたしはフランスです。」「わたしはにほんごがっこうのがくせいです。」という形で出ています。場面会話では「わたしは」と言わなくてもわかる場合は「わたしは」を言いません。「わたしは」と取り立てる場面を設定して練習させてください。</p>

	<p>例1:A 「はじめまして。Aです。日本語学校の学生です。」 B 「はじめまして。Bです。私は会社員です。」</p> <p>例2:A 「私はアメリカから来ました。みなさんは？」 B 「私は中国です。」 C 「私はインドです。」 D 「私もインドです。」</p> <p>テキストp.19の①②は、Aの「かいしゃいんです。」という発話を受けて、対比する気持ちがあり、「わたしは」と言っています。</p>
<p>練習2</p>	<p>用意するもの 世界地図、職業の絵(コラム2)</p> <p>「こちらは 名前です。身分・職業です。」</p> <p>他者を紹介する練習です。「こちら」は紹介する人物を示す動作とともに発話させ、意味を感じ取らせませす。<u>「この人」の丁寧な言い方である等の説明は不要です。</u></p> <p>「先生」は自分には使いませんし、職業を表す言葉でもありません。したがって、教師役の人物をつくり、自分の職業を言わせる場面を設定して、「私は教師です。」「私は日本語学校の教師です。」のように言わせませす。</p> <p>例: <日本語学校の学生Aが知り合いのBを青木先生に紹介する場面> A「こちらは青木先生です。」 B「はじめまして。Bです。わたしは会社員です。」 青木:「はじめまして。青木です。私は日本語学校の教師です。」</p>
<p>練習3</p>	<p>「わたしも ～です。」</p> <p>「も」を使って同じであることを表す練習をします。テキストp.21の③で、Aは、Bと国が同じなら、「私も～です。」と言い、違う場合は「私は～です。」と言うように指導します。</p>
<p>練習4</p>	<p>「はい ～です。/いいえ、～じゃありません。」</p> <p>テキストp.22の④①②は、交流会で自己紹介したり、他の参加者がだれか聞いたりする練習です。テキストp.22の④②「あの人」「だれですか」は、ここでは表現として練習します。</p> <p>自分と相手から離れたところにいる人を指しながら、「あの方はだれですか」と言う練習をさせませす。<u>「こ、そ、あ」の説明などをしないように注意してください。</u>「だれですか」も、だれかわからない場面をつかって意味がわかるようにします。学習者がわからない様子をしている場合は、無理に日本語だけで指導しないで簡単に媒介語で翻訳をしてもいいでしょう。</p> <p>答えの内容が、同じときは「～も～です」、異なるときは「～は～です」を使います。</p>
<p>はなしましょう</p>	<p>できますか？</p> <p>学生のキムさんと会社員のサラさんが初対面の挨拶をしています。5コマ目は、サラさんが、キムさんに「会社員ですか。」と聞いています。</p> <p>じゆうにはなしましょう</p> <p>①二人で初対面の挨拶をします。自由に、自分のことを紹介したり、相手に質問したりしてください。</p> <p>②会話ではなく、自分一人でまとめて自己紹介をします。できるだけたくさん言ってみませす。</p>

パート	L1-2
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人に会ったとき、あいさつができる ・近所の人と「いい天気ですね」「暑いですね」などの簡単な会話ができる
場面設定	<p>タンさんは朝学校へ行くため外へ出たところで近所の人とその子どもに会いました。朝の挨拶をして、「いい天気ですね」と声をかけます。</p> <p>近所の人に聞かれたことがよくわからなかったので、「すみません。もう一度お願いします。」と言います。</p>
場面会話	<p>指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの方を向いている近所の人に、タンさんが「おはようございます。」と声をかけるところから始めます。目が合ってから挨拶をするのではなく、自分から積極的に挨拶をするよう指導します。 ・よくわからないときは、躊躇しないで、「すみません。もう一度お願いします。」と言うように指導します。 ・会話を切り上げるタイミングをとるのも課題の一つです。「そうですね。いってらっしゃい。」の「そうですね」は高いイントネーションになるよう指導します。
練習1	<p>用意するもの</p> <p>自分のかばん、ビジネスバッグ、プレゼント、エプロン、メニュー、段ボール箱、造花と花瓶(ペットボトルなどで可)</p> <p>あいさつの言葉</p> <p>あいさつの言葉を練習します。p.26, 27 の1のイラストを見せて、時間帯と場面を確認させます。実際に動作をつけて練習します。</p>
練習2	<p>「いい天気ですね。」</p> <p>天気についてコメントする練習をします。p.27 の2のイラストを見て会話をします。表情や態度、声調に注意して発話させます。</p>
練習3	<p>用意するもの</p> <p>「ゆっくり」「もういちど」「えいごで」の文字カード(翻訳OK)</p> <p>「もう一度お願いします。」</p> <p>よく聞き取れないときの対応策を練習します。相手が言ったことに対して、「ゆっくり」「もういちど」「えいごで」の文字カードを見せ、それを発話する練習をしましょう。発話するときは目線、声調、表情、態度に注意します。</p>
はなしましょう	<p>できますか？ これもできますか？</p> <p>近所の人に声をかける会話です。イラストで状況をよく確認したうえで、会話をします。近所の人には年配の男女になっていますが、特に年配である必要はありません。いろいろな人になって練習をすると楽しくなります。年配の人の話し方をまねしてみるのも楽しいでしょう。</p>

パート	L1-3
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人やこれからお世話になる人にあいさつができる ・いつどこから来たか聞いたり、答えたりすることができる
場面設定	タンさんがアパートの隣の人に入居の挨拶に行きます。挨拶の品として、ベトナムのコーヒーを渡します。
場面会話	<p>用意するもの 挨拶の品物（コーヒー）</p> <p>指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい住まいに入ったら隣近所に挨拶をするという風習は日本社会の中でも薄れてきているようでもあります。日本語学習者が日本社会で生活をする際には、地域の人たちと知り合い、よい人間関係を作っていくことが大きな支えになります。「物」を通した付き合いも体感するのがこの場面会話のねらいです。 ・教室のドアを、隣近所の住まいのドアに見立てて練習をします。ドアが開いたときに視線を合わせて軽くお辞儀をして、「こんにちは」と言ってから「はじめまして」と言って少し深くお辞儀をします。 ・かんたんな挨拶が済んだら、挨拶のための品物を渡します。両手で渡して、相手も両手で受け取ります。
練習1	<p>用意するもの 世界地図、カレンダー、「せんしゅう」「せんげつ」「きょねん」の文字カード 「～からきました」「～の～からきました」</p> <p>場面会話の2コマ目を見せてタンさんのセリフを言わせた後、学習者に「どこからきましたか。」と声をかけて、聞いていきます。学習者は場面会話で意味がわかっていますから、なんとなく答えることができます。何人かが答えたら、テキストp.32の①①の導入イラストを見せ、セリフを文字で見せて、「からきました」に注目させます。①①は言い換え練習、①②は実践練習です。</p> <p>同様に、場面会話3コマ目を見せてセリフを言わせ、「～の～からきました」の練習をしていきます。</p> <p>①③④「場所」からきました」の練習ができたなら、続いて、「いつきましたか」と声をかけます。カレンダーを使って、先週、先月、去年だけでなく、月、日の言い方を学習者に合わせて提示していきます。</p> <p>①⑤は全員で立って、動作をつけて、挨拶をします。</p>
練習2	<p>用意するもの 飲み物、食べ物のイラストまたはレアリア 「のみますか」「のみます」「のみません」「たべます」「たべません」</p> <p>場面会話の「のみますか」「のみます」に加えて「のみません」「たべます」「たべません」を使う練習をします。同時に、飲み物、食べ物の名称をいくつか覚えます。</p>
はなしましょう	<p>できますか？ まずイラストを見せて場面と言いたいことを確認します。できたら、自分に置き換えて練習します。</p> <p>じゆうにはなしましょう それぞれの国の「挨拶の品」を学習者が考えて絵にかいて練習に使うと楽しくなります。</p>

アクティビティー	指導のポイント しつもんしましょう L1-1で学習したことをもとに、互いにインタビューをします。メモは母語でも可です。 しょうかいしましょう インタビューしたことをもとに、他己紹介をします。
よみましょう	指導のポイント まず一人でやってみます。終わったら、学習者同士で質問の答えを確認し合います。○または×にした理由を、指さしや媒介語などを使って、伝え合います。 その後、「～番は～です」を使って発表をします。プロジェクターがある場合は、読解文を映し出すと、学習者が発表するとき理由の場所が示せるので、発表がわかりやすくなります。
かきましょう	指導のポイント 生活の場面で住所や名前を書く練習をします。日本に住んでいない場合は、住所は母語で書きます。